

評価基準(ふくやま実験クエスト)

評価項目	評価基準
実証期	
適合性	課題に対してソリューションが適合しているか。
効率性	課題を効率的に解決するものであるか。
利便性	地域住民の利便性や満足度向上、行政のサービス向上につながるものであるか。
技術性	AI・IoT・ロボットなどの先端技術やデジタル技術が活用されているか。
実現可能性	実証フィールド等の調整目途や、本市や地域で受け入れが可能であるか等を含め、実証実験の実施が可能であるか。
スケジュール	スケジュールは妥当であるか。
目標	成果目標の設定は妥当であるか。
実施体制	必要な体制を構築し、適切な人員配置や役割分担がなされているか。
事業費	内容に対して、事業費が適切であるか。
リスクマネジメント	リスク対応や安全対策が十分に講じられているか。
新規性・独自性・優位性	他のソリューションとの比較において、新規性・独自性・優位性があるか。
実装期	
実装可能性	実装の可能性が高いものであるか
経済性	導入・運用コストは妥当であるか。
持続性	持続的な運用が可能であるか。
その他、独自のアピールポイントなど	
上記の項目では評価しきれない、提案者のノウハウや知識・経験を生かした有用かつ妥当な提案がなされていれば評価する。	
プレゼンテーション能力	
プレゼンテーション能力 質疑・応答	提案内容について論理的かつ分かりやすいプレゼンテーションがなされているか。 質問内容を的確に把握し、明確かつ具体的な回答がなされているか。